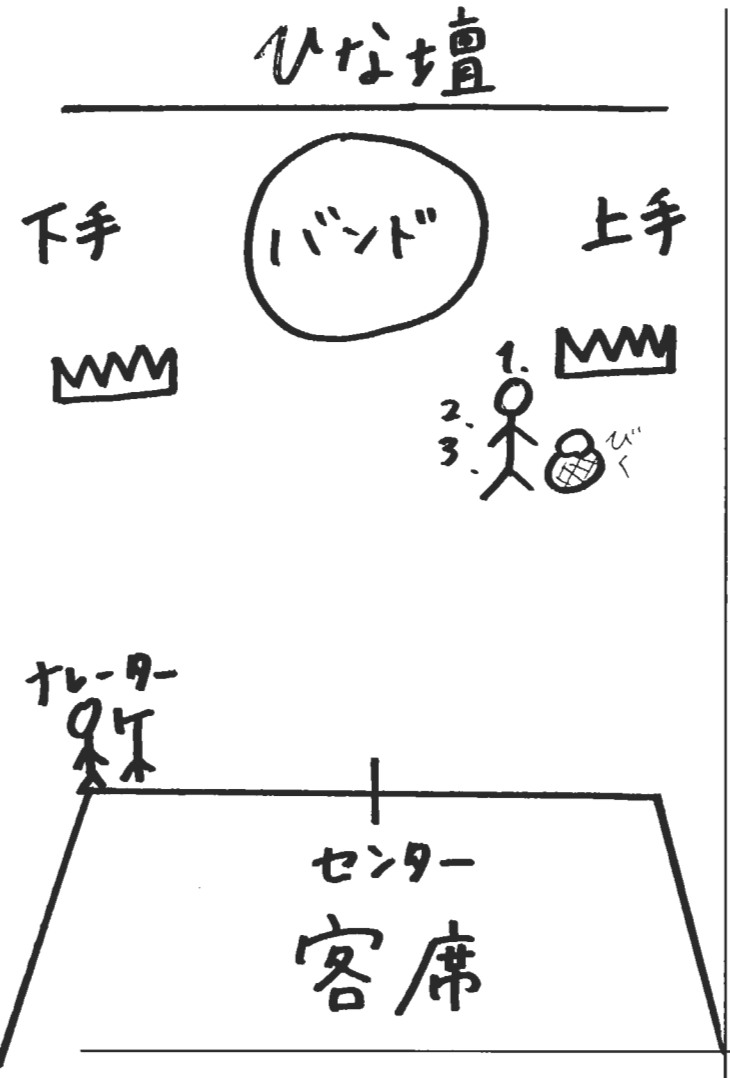


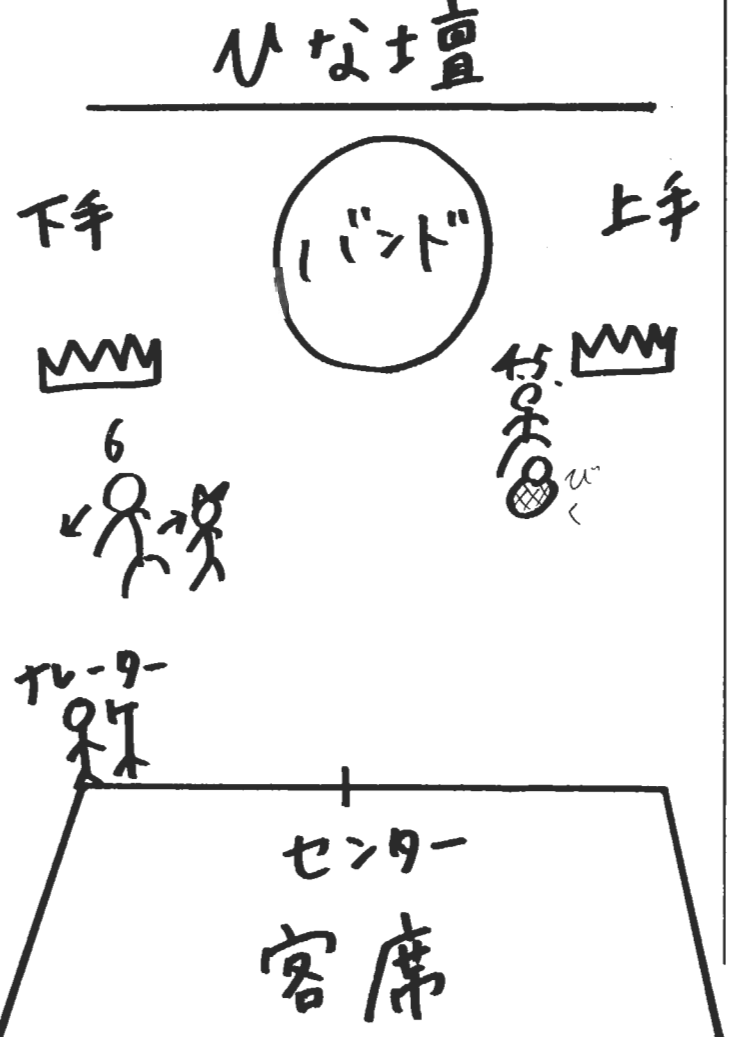
①ごんのテーマ1

2曲目「ごんのテーマ」の曲の始めから上手から入場。
右手に網、左手にびくを持つ。表情は笑顔で楽しそうに

1. 草の前あたりに来たらびくを置き、網を両手で持って
川の流れにのる魚をすくうように網を動かす。

2.「兵十は、水の中から・・・」で網の中から魚を取り出し
高く掲げる。魚が活きがよく、取り落としそうになりながら
びくの中に魚を入れ、満足そうにうなずく。

3.「それから、びくを・・・」でびくの中を探し、右手を額に
あてて右を見て左を見る。「川上のほうへと・・・」で
辺りを探しながら、上手に向かって走りながらはける。

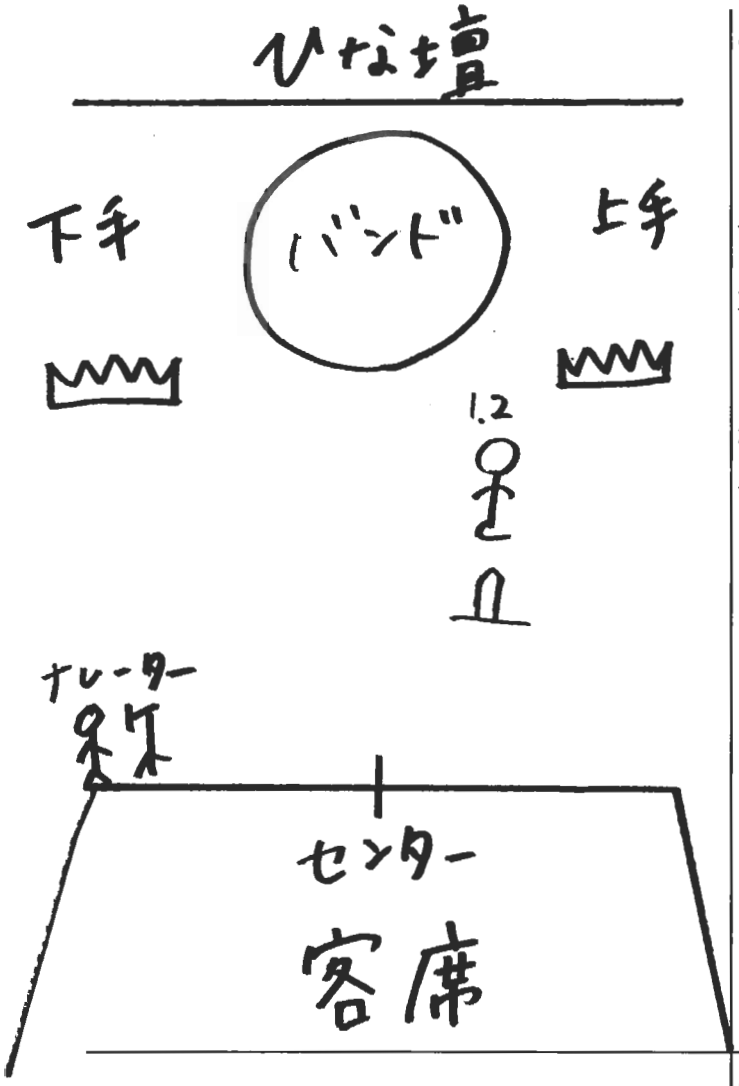


②ごんのテーマ2

4.「その途端に・・・」で上手から走って
「うわあ！」でびくを見る
「ぬすとぎつねめ！」で顔を上げてごんを見て、指差す。

5. ごんが跳びあがったの見て、びくを右手に持って
ごんを追いかける。

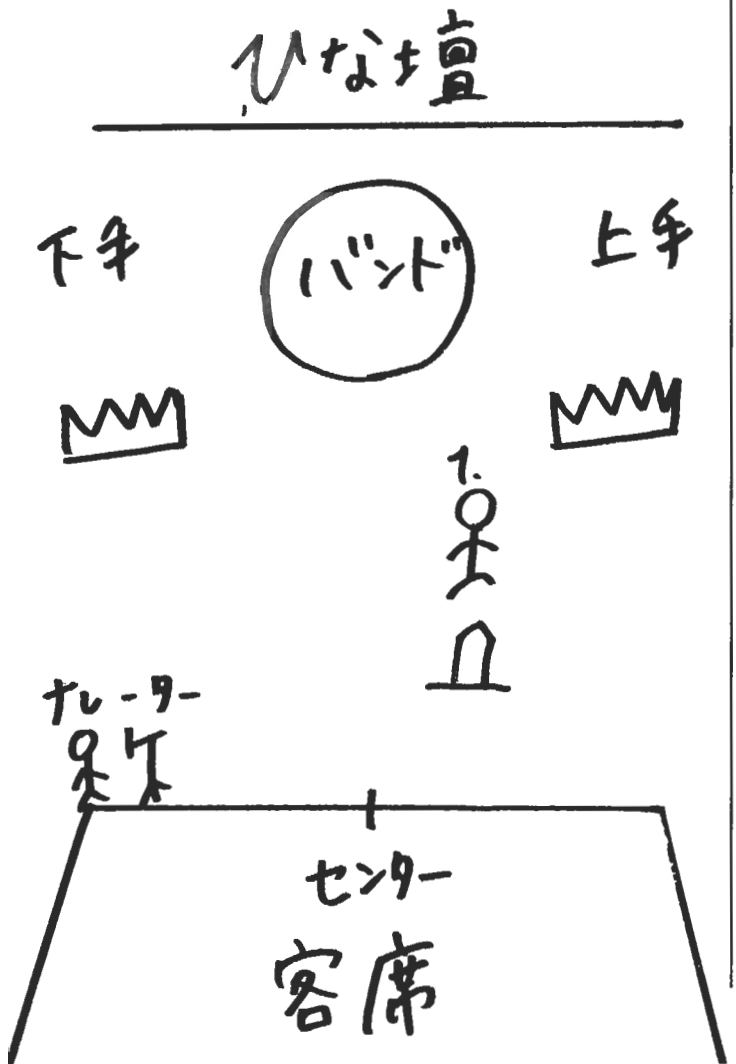
6. ごんに飛び掛り、捕まえようとするが、わきの下を
ごんにすり抜けられる。すりぬけられた後、ごんを探して
ふりかえり、また追いかける。そのまま上手にはける



③葬列のテーマ

1.「十日ほどたって・・・」で、位牌をおなかのあたりで
両手で持ちながら、上手からゆっくり入場する。
草を少し過ぎたあたりで前を向き、左足から正座する。

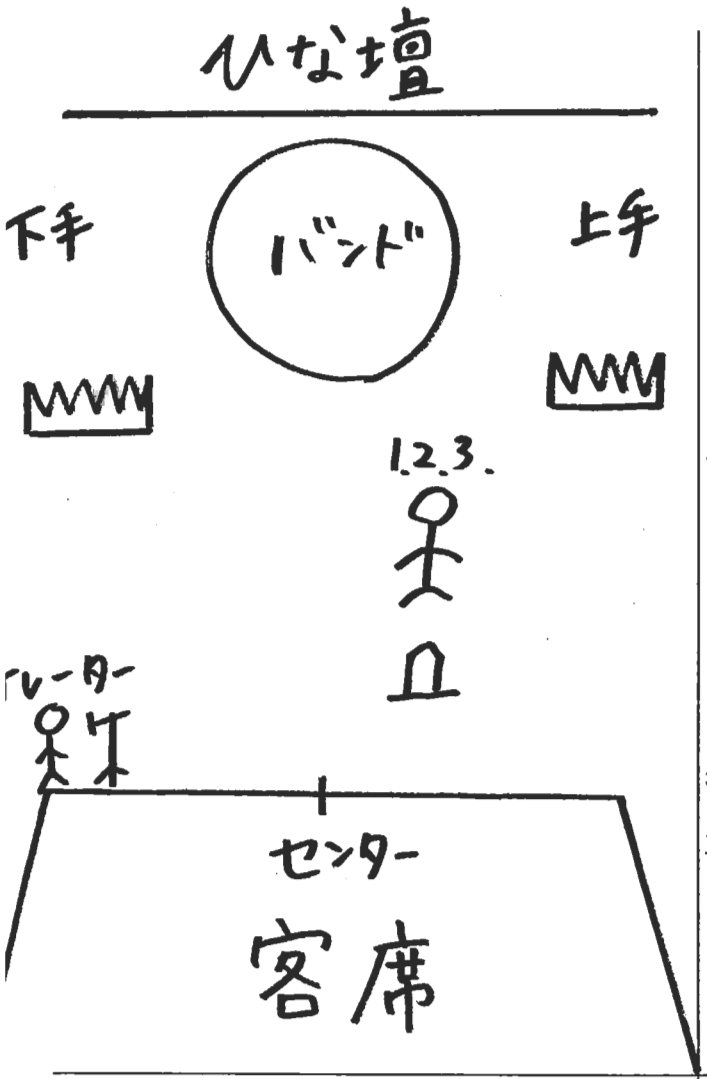
2.「よーく見てみると・・・」で、正座したまま位牌を
両手で置く。そのまま両手を前につき、顔をふせて静止。



④ごんのつぐない

1.「兵十は・・・」で、手をついたまま顔をおこし、
位牌をよく見て、今にも泣きそうな顔をし、泣く演技をする。

”泣く演技” ①目に手を当て、頭を4回縦に揺らす
②少し顔をあげ、腕で涙をぬぐう。
③腕を目にあてたまま、頭を縦に揺らす。
④②と③を繰り返す
⑤鼻をするように頭と肩を少し上げる
⑥そのまま固まる



⑤ごんのつぐない2

1.「次の日には・・・」で正座のまま体を起こす。

「兵十は茶碗を・・・」で肩を上げ、ため息をつく。

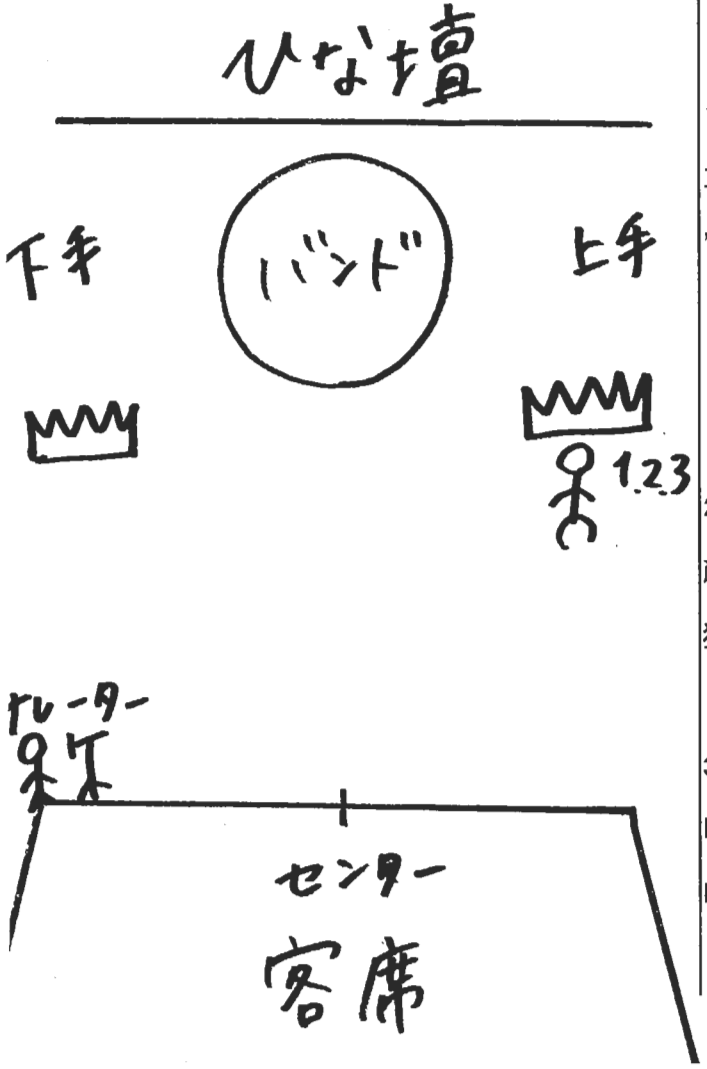
「いったい誰が・・・」で右手をあごにあてて左手を右ひじにあてて上を見る。

「俺のうちへ・・・」で首を右にかしげ、左にかしげる。

「俺は盗人と・・・」で右手を握ったままふり上げ、膝をたたく。

「いわし屋のやつに・・・」で左手を頬に当て痛がり、首を振る。

3. コーラスだけの「わたしのこころ」で位牌を持って立ち上がり、上手を向いてはける。



⑥ナレーションのみ1

1.「その明くる日も・・・」で縄をもって出てきて、草の前で座り、縄をなう。

”縄をなう” ① 両手にほどいた縄を持つ

② 縄をもったまま両手をすり合わせる。

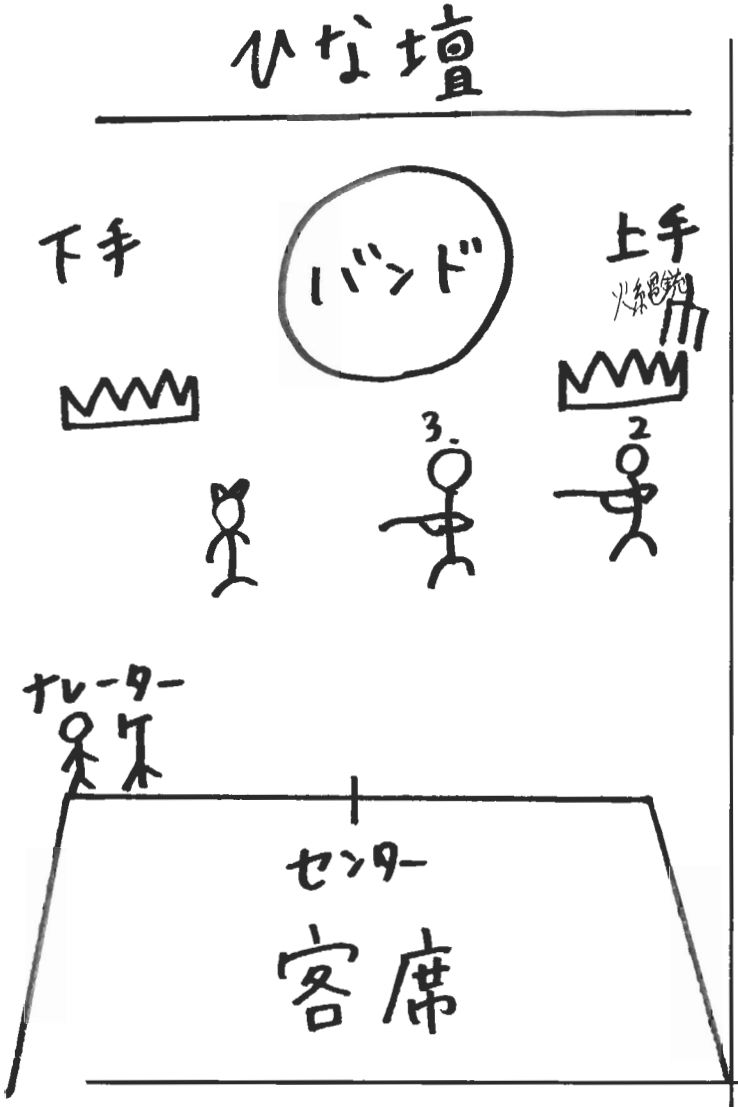
③ ②を繰り返す。

2.「兵十はふと」の「ふと」で手を止め、「顔を上げました」で顔をあげ、辺りを見回すように左を見て右を見て、狐を見る。狐を見て一瞬動きを止め、ハッとする。

3.「こないだ・・・」で縄を取り落とし

「またいたずら・・・」で手をつき

「ようし。」で立ち上がる。



⑦ナレーションのみ2

1. 立ち上がったあとゆっくりと後ずさりし、火縄銃を手にと

「火薬をつめました」で草の裏で火薬をつめる動作をする。

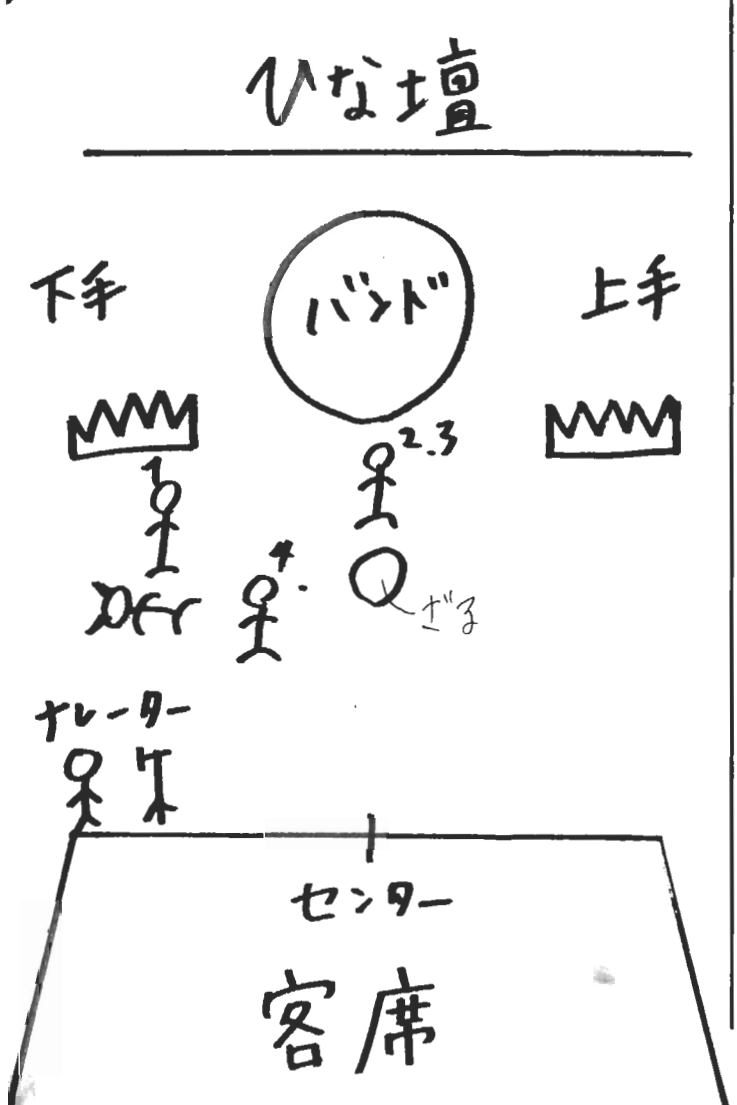
「そして」で顔をあげ

2.

「足音をしのばせ」でごんを狙いながらゆっくりとごんに近づき

3.

「撃ちました」で動きを止めて火縄銃を構える



⑧ごんの死

1.「ごんは・・・」で火縄銃を下ろし、ごんにかけよる。

2.「家の中を・・・」で後ろに振り返り、ざるを見つけて

乗り出してざるを見て、ざるにかけより、ひな壇側に座る。

3.「おや」で栗に手を伸ばし、栗をよく見る。

「兵十はびっくりして」でハッとして顔をあげ栗を置き、

「ごんに目を・・・」で立ち上がってごんにかけよる。

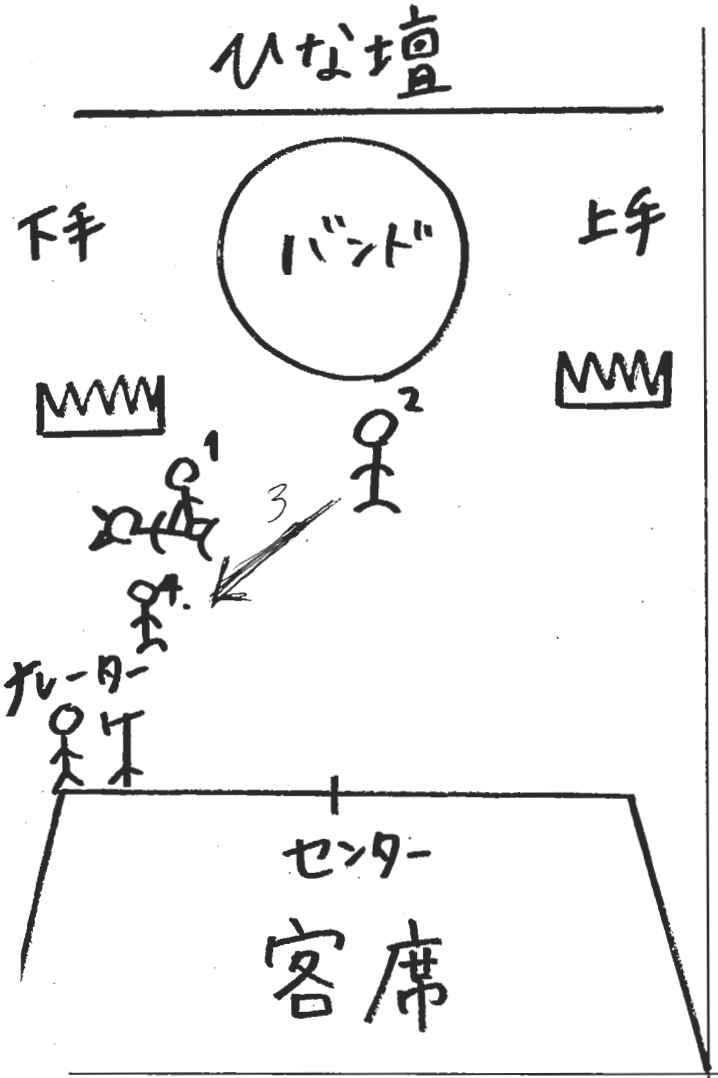
4.「ごん」でヒザをつく。

「栗をくれたのは」で手をごんに向かって手を伸ばす。

「ばたりと」の後に左手に持っていた火縄銃を落とす。

ごんが手を伸ばしてくるので、手を取り合って手を

高く掲げる。



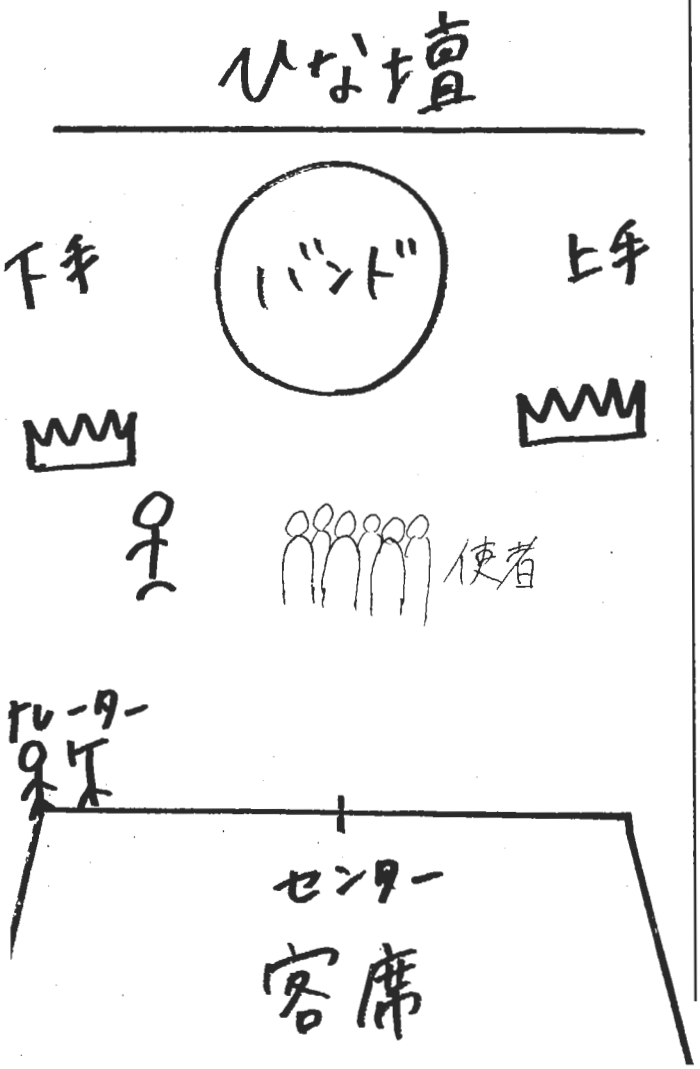
⑨さようなら

1. ごんが倒れるので、手を伸ばしてごんに手をあて、
ごんを見たまま静止

2. 使者が顔の辺りに来たら、目に見えない力に
体が押し返されるように上手方向にはじかれる。

3. ごんが運ばれて2・3歩目で大声で「ごん！」と叫びながら
ごんを掴もうとして下手方向に飛び掛る。
しかしつかめなくて空回りする。

4. 下手からごんを掴もうとするが、また空回りする。
使者がどんどん離れていくが、それを少しずつ掴もうと
しながら追いかける。
だんだんと叫びを長くし、32・33小節で2小節間かけて叫



ごんはだんだんと天に昇る（実際には使者に運ばれたまま
なので、C（28小節目）からはだんだんと天に向かって
叫ぶようにする